



カット：山崎俊生

## 北海道十勝地区～道東全域も見据えた 地域精神科医療を支える病院として オール十勝・ONE TEAMで取り組む



北海道立緑ヶ丘病院  
院長 林 公人

ご存じの通り北海道は広い。十勝地方は一つの三次医療圏であるとともに単一の二次医療圏です。人口は約33万人、面積は約1.1万km<sup>2</sup>。東隣の釧路支庁の面積は約6千km<sup>2</sup>。合わせると約1.7万km<sup>2</sup>。四国の総面積が約1.88万km<sup>2</sup>、福岡県・佐賀県・長崎県を合わせると約1.14万km<sup>2</sup>ぐらい。ちなみに十勝地区だけでも牛の頭数は約41万頭です。人口より多い。大型の家畜対象の獣医師は平均的な精神科医より、たぶんずっと多忙を極めているはずですよ。

私は2022年4月から当院の院長に就任しております。以前にもこのシナプスのコーナーで前院長の東端憲仁先生が当院の歴史と変革、現状の問題点を的確に執筆してくれております。病院の現状は特別な変わりがあるわけでもなく、できるだけ内容が重複しないように報告したいと思います。

当院は1953年に北海道東部の精神科医療施設がないことから帯広市「緑ヶ丘」に設立されました。他県のような精神保健センター的病院の設立意義とは多少意味合いが異なっていました。1984年7月帯広市の隣町の音更町に病院が移転しました。病院名変更の検討もなされたそうですが新病院住所を「緑が丘」に変える荒技を使った



写真1 隣町にある白雲山から十勝平野を望む



写真2 音更町位置図

そうです。元々は住吉台という地名で、緑が丘1番地に変更になり、2番地はありません。ちなみに病院名は「緑ヶ丘」、住所は「緑が丘」です。

音更町は「おとふけ」と呼びます。「おとさら」ではありません。アイヌ語のオトプケ（毛髪が生ず

る）からの引用です。夜が更けると音も更ける？？ちなみに十勝地区には更別村があります。こちらは「さらべつむら」です。現町長は小野伸二（天才プロサッカー選手・元日本代表・今期でコンサドーレ札幌から現役引退）ではなく小野信次（おのしんじ）氏でありま

す。音更町長選では迷うことなく一票を投じた思い出があります。

さて、当院の病床数は年々徐々に減少し移転当時は6病棟270床だったのが、現在は77床の運用病床となりスーパー救急病棟、児童思春期病棟、成人一般病棟で運営し、だいたい50人程度の入院患者しかおりません。年間の入院患者数は250人ぐらい、1日の外来患者は140～150人ぐらい。入院患者の平均在院日数が60日くらい。以前はなかなか数字かなと自負していましたが、公立病院の入院患者の減少と病床削減、入院期間の短縮は全国的な傾向で、平均在院日数も自慢できるような数値では無くなっています。この数年は大きな変化はなく経過しています。1年間を超える入院期間患者や長期の隔離や拘束による行動制限患者も数名おり、病状改善に向けて苦慮しているところです。

今は無くなった物：体育館でのクリスマス演芸会、中庭での夏祭り、全十勝精神科病院と総合病院精神科病棟合同での運動会、温室で患者とのタバコの一服、病院敷地内農作業（畑の草刈りで蕁麻疹が出てアレルギー体質になってしまった）、看護師職員用の保育所と職員の子供達の夏祭り（女性看護師の高齢化～セクハラと取らないでください）、看護師宿舍（建物だけ残り、お化け屋敷みたいになっている。）、当院朝野球チームの早朝と夕の練習、始業前の試合等々。（野球チームの名前は「ビーメンズ」。先輩の医師が名付け親です。今時の若い人には意味不明でしょう。レコードのB面を意味

しています。「たまにヒット曲が出る」→「たまにヒットが出る」。医師、看護師、事務員、給食員、検査技師、薬剤師、作業療法士、公務補からなる多職種協同を体験）  
変わらないもの：医局の窓から見える畑の風景。元々住吉地区は市街化調整区域であり、農地を転用することが難しいのです。病院設立当時から半径100mの範囲でできた建造物は高速道路が通り、大谷短大とふれあい交流館と病院前の調剤薬局だけです。基本的には農業を営む人しか住めない土地なので、今後50年経っても変わるのには気候変動による作物の種類だけでしょう。（唯一道職員関係者の公宅は許可されたそうです）

患者の職業は農業関連が多いですね。病状の確認はそこそこにして農業談義をするのが外来での楽しみです。以前長谷川式認知症検査をした農業男性が最後の野菜の名前列挙で「大豆、小豆、花豆、枝豆、金時豆、虎豆、農林00号？ ...」と豆の名前だけで10種類以上言われて、途中から自分の知識を超えてしまいました。恐るべし十勝農

民。

小麦の刈り入れ時期には外来受診予約日をずらし、逆に雨の日は臨時の受診が入る。小麦は収穫後に乾燥させるので、乾燥機の運転に重油代がかかる。そこでコスト削減のために晴れた日に一気に刈り取ることになる。雨の日にはそもそもぬかるんで大型のコンバインが畑に入れない。そこで時には夜を徹してサーチライトで畑を照らしながらの作業になる。仕事からの朝帰り、眠い目をこすりながらの外来受診患者は夜勤明けの看護師や老人福祉施設職員、水商売の方々のみではありません。

トラクターはイセキやヤンマー、クボタのみならずジョンディアやニューホランド等の外車（1000万円以上～3000万円くらいするらしい）も活躍しています。外車トラクターはでかい、タイヤの直径が成人男性の背丈ぐらいある。令和5年の夏は北海道も暑かった。私：「農作業は暑くて大変でしたね」患者：「トラクターに乗っている分には冷房が効いていて快適。」「運転もGPSで自動運転してくれる。」～よっぽど医



写真3 エアコン完備の外国製巨大トラクター

療職の方が3K職種と感じてしまう診療場面でした。

正確には比較検討していませんが、当院では外国人患者は少ない印象です。農業作業員や高齢者福祉施設職員として主にアジア圏の方が多数こられています。精神的なトラブルは少ないようです。違法薬物関連も少なめでしょうか。一昔前の脱法ドラッグ関連の症例は一件もありませんでした。大麻か覚醒剤関連の症例が年に数件ある程度です。また地下街がなくて冬が越せない事もあり精神疾患患者のホームレスもほとんど出会いません。(以前、冬期のしばらくの間は昼間建物の中で仮眠と暖をとって、夜間は町中を歩き続ける強者がいました)

当院の地域において果たしている役割は概ね以下にまとめられます。

○精神科救急医療(スーパー救急)病棟を中心とした十勝地域における精神科救急・急性期医療の中心的役割を担う。

○患者の地域移行を進め、急性期治療後の在宅患者支援をする。訪問看護については民間の事業所と連携強化を図る。

○児童・思春期精神科医療の専門外来や専門病床を有し、十勝・道東地域における中心的医療を提供する。

当院の役割の一つである児童思春期精神科治療に関しては、十勝に限らず釧路・根室・網走・北見

地区から多くの患者の対応をしています。北海道は広いのはお分かりだと思いますが、さすがに医療圏が広大すぎますね。札幌市の「コードモックル」から道立病院つながりで小児科医の派遣を受けてなんとかやりくりしているところです。

ちなみに私は高校生以上の成人患者対応ですが、北は紋別市・網走市・北見市、東は根室市・厚岸町、南はえりも町、西は南富良野町(札幌地区の大学生は除く)から数人ずつ外来受診しています。冬期の自家用車利用の通院はかなり怖いんです。コンサドーレ札幌は札幌ドームまで約180km、日本ハムファイターズは北広島市のエスコンフィールドまで約164kmの応援に行くよりは多少近い程度の距離を2時間近くかけて受診してくるわけです。なんとか遠隔医療体制がうまく利用できる事を望んでいます。

精神科救急当番は当院2：国立帯広病院1で対応し、認知症は大江病院、合併症は厚生病院で主に対応してくれています。当院の当直には本州から2名、市内クリニックの先生1名が応援に来てくれています。帯広市内のK総合病院精神科で勤務していた先生に、一度引退後に当院の外来診療と当直の応援をしてもらっています。当院単独ですべてをこなすというよりは、他院との役割分担と協力のもと、オール十勝・ONE

TEAMで十勝の精神科治療を支えています。広範囲、低人口密度、基盤産業は農業で概ね安定という土地柄で、十勝並びにその周囲の医療圏までも視野に収めて、地域住民が安心して精神医療を享受できるような病院でありたいと思います。

最後に、北海道観光には、水曜日のカンパネラ「シャクシャイン」の歌詞を参照して下さい。

「厚岸 国縫 上雷 川汲 住初  
登別 上湧別 旭神 歌内 下川  
剣淵 和寒 厚床 長万部 馬  
主来 散布 奔幌戸...～余裕綽々  
シャクシャイン 新ひだか町 い  
つも寡黙なカモクタイン 十勝  
バーベキューと白い恋人 行者ニ  
ンニク マルセイバターサンド  
六花亭 きのとやのバームクー  
ヘン...～North MUJIC、North  
LIFE いくぜ 試される大地・  
北海道！！」

北海道民でも全部の地名は読めない。白い恋人は札幌市のお菓子メーカーの商品です。六花亭が十勝を代表するお菓子メーカーの一つであり、マルセイバターサンドはお勧めです。洋菓子も和菓子も一部の果物以外はほぼ100% (小麦粉、卵、乳製品、豆類等々) 地元でまかなえます。安くて美味しい、十勝の食糧自給率は1000%！当院並びに十勝地区での就業に関心のある方は北海道病院局にご連絡ください。